



集会の自由なとなかった時代。  
汚染地図が発表され、事故対応を求めるデモが起  
りました。KGBの屋上から見た様子。(1998年9  
月)ビルの上から射殺されてもおかしくない。人々が  
恐怖を感じているのか、くっつきまわってデモして  
る様子が伝わってきます。

異変に気づいていた教師や医師たちが、「たとえ自分  
が殺されても…子どもたちを守る」ために立ちあが  
った。勇気というのは崇高な愛から生まれるものだ。その訴え  
は国境を越えて広がっていった。



はちまき文化もないのに、身につ  
ける物にアピールを書いて必死  
に、子どもたちの救済を訴えた。

人々を移住させる  
基準で「1ミリ」派  
と「5ミリ派」の闘  
いは続いていた。  
移住させるコスト  
やストレスのほう  
が被害が大きくな  
ると言う5ミリ派  
はロシア。一方、ベ  
ラルーシやウクラ  
イナは1を希望。



ベラルーシ国民もいや多くの地球人も、イ  
リインでさえも、IAEAのミッションを勘違い  
していた。誰だ？この人たちは。

意見の対立に決着が  
つかず、とうとうゴ  
ルバチョフ大統領  
は、「それならIAE  
Aの意見も聞いてみ  
よう」ということに  
同意。



(IAEAの重  
松と事故のこ  
で交流して  
ら、私・イリ  
ンに同意して  
るだろう)5  
ミリ派の勝利だ！  
フッフッフ

